

# 社会福祉法人永山会

## 平成31年度 事業計画

### 1、基本方針

社会福祉制度改正の実施にともなう体制も整い、経営組織のガバナンス強化や事業運営の透明性の向上、財務規律の強化に取り組んできた。

今後も継続的に取り組みを実施していく。

施設整備では平成29年2月16日に「まどかⅡ番館」をオープンしたが近隣に複数の特別養護老人ホームが開設したこともあり、介護職員の確保は困難さを極めた。次の時代を担う職員の育成を考えると、魅力ある職場づくりや楽しく働ける環境、相互に助け合って仕事をすすめる土壌を作ることが必要である。

人材育成では施設内外の研修会への参加を奨励し、学べる環境やキャリアパスに基づいた資格取得のため仕組みを強化する。

また、法人の基本理念である『明るく、楽しく、美しく』に基づき、利用者一人ひとりの尊厳ある生活を守り、自立した生活支援に努め、日常生活を満足して暮らしていただける施設運営を目指す。

### 2、長期目標（5か年）

- 1、社会福祉法の改正に基づきガバナンスの強化及び透明性の確保に努める。
- 2、利用者の自己実現の達成を目指す。
- 3、職員の適正やキャリアに沿った教育体制を構築し人材の育成を図る。
- 4、法令を遵守し安定した施設経営を心掛け、各サービス事業所が無駄をなくし資源の節約に努める。

### 3、中期計画（3か年）

- 1、法人の組織基盤を強化し本部体制を確立する。
- 2、認知症になっても住み慣れた地域で暮らせる支援に努め、関係機関との連携を構築する。
- 3、法人の研修体系に沿った新人・現任研修や中途採用者研修の充実を図る。
- 4、まどかⅡ番館の安定した経営と既存事業の稼働率アップを図る

#### 4、平成31年度の重点目標

「高品質のサービスを提供する」、「職員の定着、人材育成」、「財務の安定」を重点課題として取り組む。

##### 1、財務の安定

- ①各事業の目標を定め安定した収入を確保し、無駄をなくし資源の節約に努める。
- ②まどかショートステイ、まどかⅡ番館デイサービスの稼働率向上を重点課題とする。
- ③広報紙やホームページを活用し、施設の情報を開示するとともに広報活動の充実を図る。
- ④業務委託契約の見直しを継続し、適正な契約を結ぶとともにリスク管理に努める。
- ⑤施設の実態に合わせた効率的な人事配置を行う。

##### 2、高品質のサービスを提供する

- ①利用者、家族の要望や満足度を把握しサービスに関する説明や情報提供を丁寧に行う。
- ③研修による人材育成や技術、資質の向上を図る。
- ④サービス評価の実施や福祉サービス第三者評価を受審し、その評価をサービス向上に生かす。
- ⑤第三者委員会を開催し苦情や要望を真摯に受け止め改善する。
- ⑥地域住民との交流や実習生、ボランティアを受け入れ、地域の福祉の拠点として法人の公益性を高め地域社会に貢献する。

##### 3、職員の定着、人材育成

- ①各部門の目標を明確にして行動目標を設定する。
- ②キャリアパス要件を見直し意欲ある職員を役職者に登用する
- ③ハローワークやホームページ、学校説明会等を機能的に活用する。
- ④職員同士のコミュニケーションのツールとして全体研修や、グループ研修、職員会議などを活用する。また、福利厚生の実施を図る。

##### 4、リスクマネジメント

- ①介護保険法や老人福祉法、高齢者虐待防止法について研修などで繰り返し学び、ヒューマンエラーや不正な行為を根絶する。
- ②感染防止、大規模災害に備えた訓練と準備、行政や地域との災害時の協力体制を構築する。
- ③労働安全衛生法に基づき、労働環境を整え、職員の健康教育に努める。
- ④利用者が快適に過ごせるよう行き届いた清掃管理に努める。

## 《特別養護老人ホームそせい苑》

### 【概要】

ご利用者の重度化が進む中、一人一人の生活の課題や意向を把握するために、ご利用者ご家族とコミュニケーションを密に取り、個別ケア計画書を作成する必要がある。ご利用者ご家族の同意のもと、ニーズに応じた施設ケアサービスを提供しご利用者が安心した生活を送れるよう支援していく。

また、看取り介護の取り組みとして「施設で最期を迎えたい」というご利用者やご家族の意向を尊重し、趣旨に添って人生の最期を、その人らしく迎えられるよう支援していく。同時にご利用者やご家族に看取りに関する理解への促進にも努める。

福祉サービスや人権に関すること等、いかなる相談・苦情についても、誠意を持って対応し迅速な対応、解決を図る。

### 【目標・取組内容】

#### 1、個別性を尊重した介護の実践

- ① ご利用者、ご家族と職員がコミュニケーションをしっかりと取り、要望やご意見を把握しサービスに関する情報提供をすることで安心して施設を利用できるように努める。
- ② 人材育成においては、キャリアパスに応じた研修等への参加、教育体制を整備し介護力の向上を図り実践に活かす。
- ③ 看取り指針をもとに多職種協働で看取り介護を実践し、「ここでよかった」と思ってもらえる終末期を支援する。

#### 2、丁寧な接遇に努め信頼関係を構築する

- ① ご利用者及びそのご家族等からの指摘・苦情を真摯に受け止め、速やかに業務改善を図りサービスの質の向上を図る。
- ② サービス向上アンケートを実施し、施設サービスを振り返る機会を持つ。
- ③ 定期的に広報誌やブログで施設の生活や活動を掲載し、ご家族にご利用者の様子や施設の近況を知ってもらえるように努める。

#### 3、職員の確保、定着、育成

- ① 職場内のコミュニケーションを密に取り、職員間の連携を図る。職員との面談において、個々の行動目標を明確にし、職員の意識向上、育成を図る。

- ② キャリアパスに準じた外部研修に積極的に参加し、職員の技術・資質向上に努める。

《そせい苑老人デイサービスセンター》

【目標・取組内容】

- 1、ご利用者一人一人が望む生活を実現する為に適切なサービスを提供する組織づくりに努める。
  - ① 他職種(自事業所、他事業所とも)での情報共有を密にしたアセスメントを行ない、在宅生活が継続できるようご利用者の個別性に応じたケアや機能訓練の提供を実践する。
  - ② ご自身で選択できるレクリエーションや生活リハビリ等のプログラムの充実を図りご利用者・ご家族の満足度を高める。
  - ③ ご利用者の変化や気になる事があった際には日常的にショートカンファレンスを開催し、その内容を改めて職員全員が参加するデイ会議(月1回実施)で周知・確認ができるようにする。
  
- 2、理学療法士による個々に応じたりハビリを行う事でご利用者のADLの向上・維持を行い、在宅生活でも行えるリハビリの指導を行う。
  - ① 居宅チェック、サービス担当者会議等で自宅を訪問する機会にご利用者の生活を把握し、デイサービスでの過ごし方だけでなく、自立した在宅生活を送れるように支援していく。
  
- 3、記録業務の分散(分担)化を図ることで、業務を効率的に行う。
  - ① 多職種職員が介護記録システムを有効活用し、記録業務の効率化を図る。
  
- 4、1月より木曜日・日曜日を休業日とし週5日の営業となった。新規利用者拡大を推進し稼働率の向上を目指す。
  - ① 包括支援センター及び居宅介護支援事業所への情報提供や訪問を密にし、稼働率の向上につなげる。
  - ② 毎週火曜日を他事業所への訪問日とし、各居宅介護支援事業所をまわり顔の見える関係を構築する。まどかⅡ番館デイサービスとも連携し両施設の稼働率向上を目指す。

## 《そせい苑ケアプランセンター》

### 【目標・取組内容】

- 1、利用者一人ひとりが住み慣れたまちで自立した尊厳ある暮らしを送れるよう質の高いサービスの提供に努める。
  - ① 法令を遵守し公平公正な事業運営を行っていく。
  - ② 施設内、施設外の研修に積極的に参加し、また「しがそせい苑」「まどかⅡ番館」と連携することにより法人内居宅介護支援事業サービスの質の向上と平準化を図る。
- 2、京都式アセスメント点検ガイドラインを勉強・活用し、アセスメント能力や分析能力の向上を図ることで、より個別性の高いケアプラン作成を行う。
- 3、地域にある様々な機関（行政、保健、福祉、医療）との関係強化を図り、地域福祉の向上に寄与する。
  - ① 地域内で行われている各種会議や連絡会に参加するとともに、平成27年度から継続している地域社会資源訪問を継続しより強固な関係作りを行っていくことにより地域包括ケアシステムの推進に寄与する。
- 4、法令を遵守し、適切な事業運営を行なう。その中で稼働率向上(92%以上)、加算算定を目指して行く。
  - ① 法人内他部署との意思疎通を強化して施設全体として統一化された利用者サービスが提供されていくように努める。
  - ② 主任介護支援専門員資格者を養成し、利用者により質の高いサービスが提供できるようにするとともに年度内の早期に特定事業所加算Ⅰ(500単位/人)の算定を目指す。

## 《京都市下鳥羽地域包括支援センター》

### 【長期目標（5ヵ年）】

- ・2025年を目前に控え、高齢者一人ひとりが、支援や介護が必要になっても、住みなれた地域で最期まで自分らしい生活を送ることが出来るように、地域住民や多職種の関係諸団体等が顔の見える関係を作り、地域ケア会議を活用し、地域住民が主体となって地域の課題に取り組み、改善に繋ぐことができる仕組みづくりを目指す。

### 【中期計画（3ヵ年）】

- ・認知症サポーター養成講座を圏域内のメイト（講師資格者）の協力も得ながら開催し、認知症に関する普及・啓発を行い、現在開催されている認知症カフェ（オレンジカフェ、SAKURA カフェ）の普及・定着を図る。
- ・民生老福合同会議などの地域の会議に、定期的に参加できるような関係性を築く。
- ・異世代間交流と、介護予防・認知症の普及啓発を目的とした地域イベントを年1回定期的に開催する。
- ・地域ケア個別会議の開催を圏域内の居宅介護支援事業所に定着させ、各学区で10回の開催を目指す。
- ・多職種が参加した事例検討会を年1回以上開催し、自立支援や重度化防止に効果の高いケアマネジメントのノウハウを蓄積する。
- ・高齢者自身が担い手となって活躍できる、地域の実情に合った支え合いや居場所作りの取り組みを支援する。

### 【短期計画】

- ・圏域内の3小学校のうちの最低1箇所で、小学生向けの認知症サポーター養成講座を開催する。
- ・地域住民や役員、各種団体・機関と協力し、個別ケース等を通じて各学区の課題・ダイヤモンドの把握を行い、具体的な計画を地域とともに立案し実施・評価ができる。
- ・圏域内の居宅介護支援事業所と協働して、年4回事例検討会を開催する。
- ・地域ケア個別会議へ、圏域内の居宅介護支援事業所から各1ケースは事例を提出してもらう。（圏域内居宅：11事業所）
  
- ・三職種・プランナーともに圏域の後方支援・困難事例についての共有・事例検討を定期的に行いチーム力と各個人のスキルを強化する。
- ・公園体操ボランティアインストラクターの後方支援を行いながら地域の介護予防の普及啓発活動を行う。
- ・まどかII番館で地域向けの体操教室を開催し、社会資源の一つとして定着を図る。
- ・包括の機関紙等の発行を行い、地域の情報等を提供するツールとする。
- ・警察や消費生活安全センターからの情報を活用し、高齢者の権利を守るための、勉強会や広報を行う。

## 《介護老人福祉施設まどか》

### 【概要】

開設7年目を迎えたまどかは、平成30年度には利用者の平均要介護が4と重度化し、医療を必要とする人が多く、入院者や退所者が増加した。今後も医療や看取り介護を必要とする入所者の増加が考えられる為、利用者の健康管理や清潔管理などに力を入れていきたい。

また、介護職員全体数に対して派遣の割合が多くなっている。入職した職員に指導する中堅職員の減少もあり指導職員の育成と確保に努めたい。

### 【目標・取組内容】

#### 1、利用者のサービス向上に努める

- ① 利用者や家族の意向を把握し、アセスメント、24Hシート、記録、モニタリングを適切に実施し、ケアプランに基づいたケアを充実させる。
- ② 利用者1人ひとりの病気や体重変化などの把握を正確に行い、早期発見・早期治療に努める。

#### 2、施設の清潔を保持する

- ① 施設の掃除区画を見直し、掃除実施日や担当を明確にし管理する。

#### 3、職員の介護技術の向上に努める

- ① 利用者の年齢や身体状況を踏まえた介護をするためにキャリアパスに沿った外内部研修に参加し、個々のケアの質を向上させる。
- ② 指導職員を増やすために指導手順書を見直し、指導職員の為の勉強会を実施する。

#### 4、職員の確保に努める

- ① 職員が定着するように職員面談をチーフ以上の役職者が3ヶ月に1回実施し、職員同士のコミュニケーションを活性化させる。
- ② 正規職員や新卒者の獲得に向けて、インターネットサイトの活用やホームページの改善に努める。

#### 5、地域交流に努める

- ① 毎年行われる地域の運動会、祭りなどに積極的に参加する。
- ② まどかサロンを毎月開催し、ボランティアの受け入れをする事で施設

への訪問回数を増やし、まどかを知ってもらう機会を増やし、新たな地域福祉の拠点として活動する。

## 《まどかショートステイ》

### 【概要】

平成24年4月から開設7年目を迎え、平成30年度は伏見区内に高齢者施設が続々と建設され利用者が他施設へ入所し、新規利用者獲得が困難となり、稼働率が著しく低下した。新規獲得に向け、他事業所への訪問範囲の拡大や送迎範囲の拡大を試みたが稼働率は平成31年1月までは低迷した。平成31年2月からは76%と少しずつ向上している為、新規利用者獲得とともに定期利用者の獲得にを入れていきたい。

### 【取組内容】

1. 稼働率向上に努める
  - ① 居宅訪問活動を週に1回行い、計画的に実施する。対象範囲は京都市南区・長岡京市・向日市・山科区・伏見区淀・伏見区久御山町・宇治市槇島の当施設から片道30分圏内にある居宅介護支援事業所を主とする。
  - ② 施設紹介用チラシを作成し、利用者が施設での生活を楽しんでいただけるようなプレゼンテーションを行う。
2. 利用者のサービス向上に努める
  - ① 利用者がどのようなニーズを持っているかを把握し、安全面での配慮、環境面でも工夫し、過ごしやすいように努め、「また来たい。」と思えるサービスを提供する。
  - ② 現在行っているクラブ活動やレクリエーションを継続する。
3. 清潔感あふれる施設を目指す。
  - ① 施設の掃除区域を見直し、掃除実施日や担当を明確にして管理する。
4. 職員の確保に努める
  - ① 職員が定着するように職員面談をチーフ以上の役職者が3ヶ月に1回実施し、職員同士のコミュニケーションを活性化させる。
  - ② インターネットサイトの活用やホームページを見直し、新卒者や正規職員の獲得に努める。



## 5. 経費削減に努める

- ① 電気、紙等の使用方法を見直しコスト費用の20%の削減に努める。

### 《まどかⅡ番館 特別養護老人ホーム》

#### 【概要】

平成30年2月にオープンして以降、スムーズな入所により5月に満床、稼働率100%となった。オープン当初は、入所時の歓迎会やテラスでの昼食会、近隣への散歩等が自然と行われていたが、稼働率の上昇と共に頻度が少なくなっていた。

また、サービス向上アンケートや苦情受付でのご意見はご入居者の清潔面（衣類の汚れや爪の長さ）、環境の清潔面（居室やトイレ）、職員間の情報共有不足に対する要望もあり、サービスの基本となる部分が不十分になってしまった。

来年度は計画的な施設行事を開催し、近隣への散歩や地域の美容室での散髪、スーパーへの買い物など気軽に参加できるようにしたい。課題である職員間の連携もスムーズに行われつつあるので、ご家族に安心していただけるサービスに努める。平成31年度も利用者が楽しく過ごせる施設運営に努める。

#### 【目標・取組内容】

1. ご入居者に対するサービスの向上を図る。
  - ① ご入居者、ご家族の意向を踏まえ、アセスメントやケアプラン、24時間シートに基づいて日常のケアを確立し、丁寧に記録に記載する。
  - ② ユニット会議を用い、ユニットリーダーが中心となり、24時間シートの勉強会をユニット単位で行う。
  - ③ ご入居者が快適に過ごせるよう、ご入居者の整容と共に、共用スペースや居室等の清掃を徹底し、チェック表を用いて実施状況を可視化する。
  - ④ 日々、ご入居者と楽しく過ごせる時間が持てるように、レクリエーションを企画する。
2. 職員間のコミュニケーションを密に行い、職種間の連携強化と職員のスキルアップを図る。
  - ① 定期的な面談を行い、職員間の意思疎通がスムーズに行えるようにす

- る。
- ② ケアについてのカンファレンスを行い、介護の質を高める。
  - ③ 全体会議を通じて、事業所全体の課題の抽出や雇用形態を問わない意見交換を促進する。
3. ご家族、地域、医療機関等、ご入居者を取り巻く資源との連携を構築する。
- ① 面会時等積極的にご家族と情報交換し可能な限りご要望に応じていく。
  - ② 担当者会議、家族会（年2会）、運営推進会議（2ヶ月毎）その他行事等へのご家族の参加を促進する。
  - ③ 介護相談員派遣事業を用いて、ご入居者・ご家族の生の声を汲み取る。
  - ④ 苦情やご意見は所定の用紙を用いて積極的に情報公開し、改善に向けて取り組む。

#### 《まどかⅡ番館デイサービスセンター》

##### 【概要】

平成30年4月16日に開設し、地域包括支援センターや居宅介護支援事業所に訪問するも新規ご利用者の獲得には至らず稼働率が著しく低迷した。ご利用者獲得に向け週3回の訪問用チラシを各事業所に送り、週1回の訪問を行うも30年度は新規ご利用者21名という結果となった。

平成31年2月は稼働率25.7%と伸びない現状が続いているため再度、新規ご利用者の獲得と稼働率の上昇に取り組むよう努める。

##### 【目標・取組み内容】

- 1、新規ご利用者の獲得、稼働率の上昇を図る。
  - ① 各事業所での訪問時や問い合わせの声から短時間デイサービス（3－4時間）を4月より始動して、1人ひとりにあったサービス提供が出来るよう柔軟な対応をする。
  - ② Ⅱ番館たよりの作成を継続し、定期的に各事業所を訪問する。
  - ③ ストレッチ体操や、ボール体操などの運動メニューを増やし、利用者に体験していただく。

## 2、個別性のあるリハビリを実施する。

- ① ご利用者が在宅生活を長く続けられるよう多職種との情報共有を行い、身体機能に応じた機能訓練を行う。アセスメントや日常記録を見直し、モニタリングを行う事で日々の観察から会議等で意見交換を行い、1人ひとりにあった機能訓練を実施する。
- ② 日常生活に必要な筋力の維持向上を図る。

## 3、クラブ活動・レクリエーションの充実を目指す。

- ① 編み物や読書等趣味の活動を継続し、自宅の延長で過ごしくつろげる空間を大切にする。
- ③ 学習療法で行った作品を個々のファイルにまとめ、自宅でも継続的に楽しめるように工夫し介護予防を推進する。
- ④ レクリエーションで使用する物品を増やし充実したレクリエーションが実施出来る事でご利用者の満足度を高める。

## 4、施設内の清潔を保持する。

- ① 掃除区域を決定して、清掃業務に力を入れる。掃除実施日を総括表で管理して担当を明確にする

## 《まどかⅡ番館グループホーム》

### 【概要】

平成30年3月9日にオープンし、9月に満床となったが、直後に延べ3名がかかるがわる入院となり、12月によりやく満床となった。

現在の平均要介護度は2.55で自立度も高く、認知症の症状も軽度の方がほとんどである。ご入居者それぞれの身体状況に応じたサポートや転倒などの事故に対するリスクマネジメントを強化する必要がある。また、個々のかかりつけ医との連携も不可欠で情報共有を通じて関係を構築していきたい。様々な雇用形態の介護職員がいるため、資質やサービスの標準化が求められる。認知症ケアの基本をしっかりと学びサービスの向上に努める。

### 【目標・取組内容】

1. ご入居者それぞれの状況に応じたサポートを行う。

- ① これまでに知り得た情報やご本人の言葉をアセスメントツールに改めて落とし込み、ご本人の「できること」や「希望」を再度抽出し、個

- 別性のあるケアプランを作成、それに基づいたケアと日常記録を実践する。
- ② 環境面のリスクやご入居者の状態変化に敏感になり、ヒヤリハットに対する意識を強化し、事故件数（骨折等による入院者）を減らす。
2. 内外部の研修や勉強会を通じて、職員の育成、資質・サービスの向上を図る。
- ① グループホーム会議をツールとして、毎月認知症に関わる勉強会を開催する。
  - ② グループホームや認知症に関わる外部研修に参加し、伝達研修を実施する。
  - ③ ご入居者が快適に過ごせるよう、共用スペースや居室等の清掃を徹底し、チェック表を用いて実施状況を可視化する。
  - ④ 第三者評価を受診し、評価結果をサービスの向上につなげると共に、ご家族や外部（ホームページ等）へ開示する。
3. ご家族、地域、医療機関等、ご入居者を取り巻く資源との連携を構築する。
- ① 担当者会議、家族会（年2会）、運営推進会議（2ヶ月毎）、その他行事等へのご家族の参加を促進する。
  - ② 地域ケア会議（下鳥羽学区・3学区合同）に積極的に参加し、地域課題の把握や情報共有、グループホームの在り方を模索する。
  - ③ 介護相談員派遣事業を用いて、ご入居者・ご家族の生の声を汲み取る。
  - ④ 定期受診時にかかりつけ医に積極的に施設での様子を情報提供する。

#### 《特別養護老人ホームしがそせい苑》

##### 【概要】

平成30年度は介護職員不足も顕著で外国人労働者の雇用説明会や資格を持ちながらも介護経験のない人材と施設をマッチングさせる取り組みが行政主導で実施されるなど介護職員の獲得が厳しくなっている。しがそせい苑でも経験の浅い職員の入職が多く介護技術の指導や接遇などの指導をきめ細やかにする必要がある。そのため介護職員の指導的役割を担う職員の育成にも重点的に取り組む。しがそせい苑の利用者が、施設でも在宅でも安心・安全に暮らせ

るようにそれぞれの専門職が知識と技術を習得できる環境をつくる。  
数年前から取り組んでいる地域活動も定着し、サロンや行事を通して地域との関わりの幅が広がりつつある。今後も、地域福祉の拠点として施設の公益性を高め地域社会に貢献する。

#### 【目標・取組内容】

- 1、重度化している利用者、認知症の利用者が、安心・安全かつ快適に生活していただけるよう、それぞれの専門職が知識と技術の習得に努める。
  - ① 主治医、介護、看護、管理栄養士、機能訓練指導員など、職種との連携をおこなう事で、利用者の口腔機能向上に取り組む。また栄養プランの充実を図る。
  - ②利用者や利用者家族の希望に沿った看取りケアの提供等を行い、重介護の利用者が安心・安全に暮らせるように高い知識と技術、倫理を身に付ける。
  - ③外部研修に積極的に参加し、専門職としての技術と知識の向上を図る。
  
- 2、地域社会との連携を密に持つことで、地震や水害等様々な災害対策を講じ、非常事態に対応できるシステムを構築する。
  - ① 地域との交流を積極的に行い、災害時には積極的な非常災害協力を得られるように地域との共助の取組を強化していく。
  - ② 利用者には生きがいをもって生活してもらえるように支援する。また、職員にはやりがいと誇りを持って働けるような職場環境を作る。

#### 《ショートステイ しがそせい苑》

#### 【目標・取組内容】

1. 利用者一人ひとりが望む生活を実現するため利用者や家族の話を聞き個別性の高い短期入所介護計画を作成し、在宅で生活されている方が住み慣れた地域でできる限り長く生活できるよう支援する。
  - ① ケアマネージャー、主治医等、利用者を取りまくサービス事業者と積極的に情報交換し、より良いサービスの提供に努め在宅支援機能の強化を図る。
  
2. ケアプランに沿った総合的な機能訓練で利用者の機能向上を努める。
  - ① 職員は情報の共有に努め、アセスメント機能を高め個別性の高いサービスを提供する。
  - ② 研修会、勉強会等に積極的に参加し、職員一人ひとりが技術を高め

る。

3. 重度の認知症の方やその家族が安心して暮らせるよう行政や医療機関などと連携する。
  - ① 中重度の要介護者や認知症高齢者が住み慣れた地域で自分らしく暮らせるように、また家族の介護負担軽減となるよう支援する。
  - ② 行政や医療機関との関係を強化し事故防止、感染症予防に努める。
  - ③ 地域連携の拠点として医療や介護、地域住民活動など連携し、家族との情報交換や連携を図り地域包括ケアシステムを推進する。その一環として地域サロンを毎月開催していく。

#### 《デイサービス しがそせい苑》

##### 【目標・取組内容】

1. 利用者一人ひとりが望む生活を実現するため利用者や家族の話を聞き個別性の高い通所介護計画を作成し、在宅で生活されている方が住み慣れた地域でできる限り長く生活できるよう支援する。
  - ① ケアマネージャー、主治医等、利用者を取りまくサービス事業者と積極的に情報交換し、より良いサービスの提供に努め在宅支援機能の強化を図る。
2. ケアプランに沿った総合的な機能訓練で利用者の機能向上を努める。
  - ①施設内通貨『エール』をツールとして使用し利用者の自立支援の援助が出来るようプログラムの充実を図る。
  - ②職員は情報の共有に努め、アセスメント機能を高め個別性の高いサービスを提供する
  - ③研修会、勉強会等に積極的に参加し、職員一人ひとりが技術を高める
3. 旧介護予防相当サービスの方にとって介護が必要な状態になっても住み慣れた地域で暮らし続けることができるように、その人の心身状態や必要性にあわせて、さまざまなサービスを提供する。
  - ① 利用者の在宅生活を支援し、ケアプランによる希望に沿ったリハビリを実施する事で介護予防に努め利用者の機能向上に努める。また、心身機能訓練から生活行為向上訓練まで総合的に機能訓練を行い利用者のADLの維持、向上を図る。

4. 重度の認知症の方やその家族が安心して暮らせるよう行政や医療機関などと連携する。

- ① 中重度の要介護者や認知症高齢者が住み慣れた地域で自分らしく暮らせるように、また家族の介護負担軽減となるよう支援する

《居宅介護支援事業所 しがそせい苑》

【目標・取組内容】

- 1、在宅で生活されている方が、住み慣れた地域でできる限り長く生活できるよう支援する。【在宅支援機能強化】
  - ① 要支援者、要介護者が住み慣れた地域で家族や友人との繋がりを持ち続け生活できるよう支援する。
  - ② 認知症状で徘徊をされる要介護者やその家族が安心して暮らせる地域の環境作りを行政と連携して行う。
  - ③ 様々な制度に対応できるよう内外の研修に参加し、より良いケアプランを作成する為に自己研鑽に努める。
  
- 2、重度の認知症の方やその家族が安心して暮らせるよう、行政や医療機関と連携する。【地域包括ケアシステムの推進】
  - ① 利用者、家族、医療機関、地域のサービス事業所、民生委員、地域住民との情報交換を密にし、利用者を取りまく社会資源をサービスに位置づけ、地域包括ケアシステムの構築に努める。また、施設での取り組みである地域サロンに積極的協力を行い、在宅ケアマネージャーの顔を覚えて頂ける様にする。

《ケアハウス しがそせい苑》

【目標・取組内容】

- 1、現在入居されている入居者が、できるだけ長く健康でケアハウスで生活できるよう、介護予防の推進し、入居者の機能向上に努める。
  - ① リハビリ体操やクラブ活動、入居者の特技を活かせる余暇活動を通じ、介護予防を推進し、入居者の機能向上に努める。
  - ② 加齢に伴う疾病や ADL の低下に対応できるよう職員の技術や知識の向上に努める。

- ③ 入居者確保に向けて、守山市・野洲市・栗東市内の居宅介護支援事業所への訪問活動や県外や県内の病院からの相談が増えているため、湖南地域以外の病院へも行う。
- ④ 内覧会を定期的を開催するなど、ケアハウスのPR活動を進め、空室を速やかに埋められるよう入居待機者の確保に努める。

2、地域住民との関係作りを構築する。

- ① 入居者が積極的に地域の催しに参加し、交流を深めることで顔なじみの関係づくりを行う。

3、地域社会と連携し災害時の対策を講じ、非常事態に対応できるシステムを確立し、安心・安全に暮らせるよう支援する。

- ① 行政や医療機関との関係を強化し、感染予防に努める。また地元大曲町との災害時連携、守山市の福祉避難所、また防犯のための近隣パトロールなど、地域社会と連携し有災時の協力体制を確立する。

4、高齢化がすすむ現状に沿って、ケアハウスでの生活が困難になった入居者の次の居場所をスムーズに確保できるよう、入居者・家族・ケアマネージャー・主治医等、入居者を取りまくサービス事業者との連携を行う。

- ① 入居者との信頼関係を作り、健康面、生活面の相談しやすい雰囲気を作る。家族訪問時には、入居者の近況の生活状況を知らせることにより、信頼関係を構築していく。